

戦後 70 年アピール

日中友好の精神を若い世代へつなごう

今年は、戦後 70 年を迎えます。

アジア諸国をはじめとする多くの国を侵略し、多大な損害と犠牲を与えたあのいまわしい戦争の反省に立ち、戦後日本は平和国家として着実に復興の道を歩んできました。

私たち協会は、侵略戦争の反省のもとに設立され、今年で 65 周年を迎えます。

戦後の困難な中、私たちの先輩は「日中両国の平和こそ、両国国民に利益となり、アジアひいては世界の平和に役立つ」との信念を持ち、犠牲を恐れず、身を挺して日中国交回復のために広範な日本国民と手を携え奮闘、努力しました。1972 年の国交回復後は、日中間の政治、経済、文化、教育、スポーツそして友好都市などの各分野の交流は大きく発展しました。私たち協会も、民間の立場で、全国各地で積極的に活動を繰り広げました。

戦後 50 年の 1995 年、私たち協会は「戦争による心の傷を修復しよう」と南京城壁保存修復協力事業を展開しました。その事業 20 周年となる今年 5 月には、日中双方の大学生、協会員および中国側を含む約 400 人が南京で記念行事を開催し、平和への誓いを新たにしたところです。

しかし、近年の日中関係は決して安定したものとは言えません。国交正常化 40 周年の 2012 年には「島」の問題で両国関係はこじれ、諸交流は停滞し、国民感情は最悪の状態になりました。私たち協会は、中日友好協会などと協力し、昨年 9 月に第 14 回日中友好交流会議を大阪で開催し、「交流の再開が必要だ」と内外に強く訴えかけました。そして、ついに同年 11 月に安倍晋三、習近平両首脳の間で会談が実現したことで、日中関係は改善の一步を踏み出しましたが、なお双方の努力は欠かせません。

今年 8 月、安倍首相は、戦後 70 年の談話を発表しようとしています。私たち協会は、安倍首相が戦後 50 年に出された「村山談話」を継承し、侵略戦争の歴史を直視し、素直にお詫びし、アジアそして世界の人々と共に生きる道を歩むことを強く希望します。協会はこのような歴史の節目に、改めて、モットーである「平和、不再戦」を掲げ、先輩が歩んだ歴史をかみしめ、次代を担う日中双方の若者に友好の精神を継承してもらえよう活動力を強く進めてまいります。

日中両国民は、相互理解を深め、共存共栄の道を歩むほかになく、そのための私たち協会の役割は「任重くして道遠し」です。日中両国の友好は両国民のみならず、アジアと世界の人々にとっても極めて重要であると、私たちは確信しております。

2015 年 6 月 18 日

公益社団法人日本中国友好協会第 6 回定時総会